



2016年1月22日

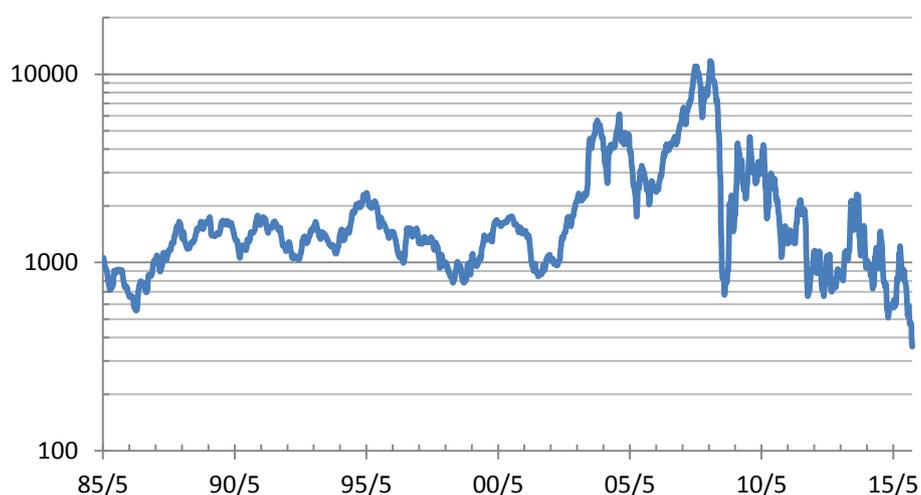
## 減速する世界貿易と次のリスク

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

世界経済の減速が明らかになってきた。最初の証拠は、貨物船の備船料を示すバルチック・ドライ指数の低下である。週足の同指数は85年5月以降の最安値に下落してきた。需要の低迷に船腹の増加が重なっての最安値更新であろう。ピークは2008年5月の11,771で1月20日の358はそこから97%の低下である。海上は強烈なデフレ風が吹いている。

ドライ指数は鉱石や穀物を運ぶバラ積み船のチャーター料を示しており、中国の資源需要の減退がそのまま備船料の低下につながったと考えられよう。2014年、中国のアフリカからの輸入は前年比39.5%減（1-11月、ドル建）となっており、リーマンショック時の22.6%減（2009年）を上回る大きな落ち込みになっている。ラ米からの輸入も19%減と振るわない。

図1. バルチック・ドライ指数



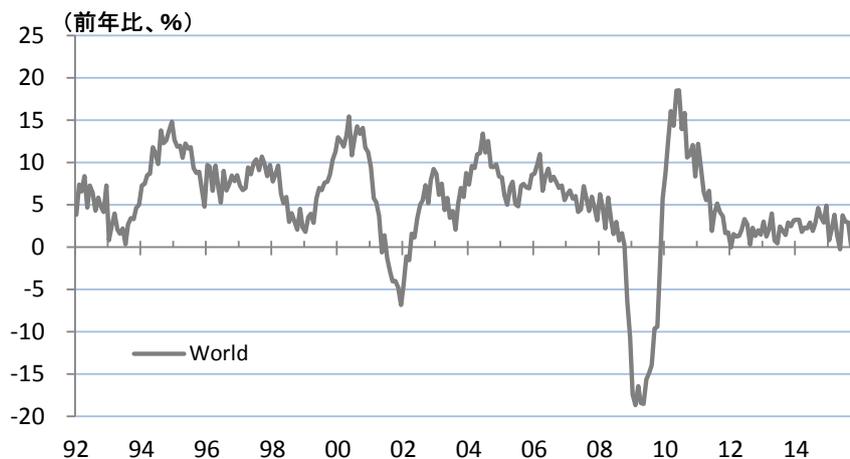
(資料)トムソン・ロイター

次にオランダ経済政策分析局が作成している世界実質輸入をみると10月は0.9%増に留まり、2015年にはいつから低迷が続いている（図2）。

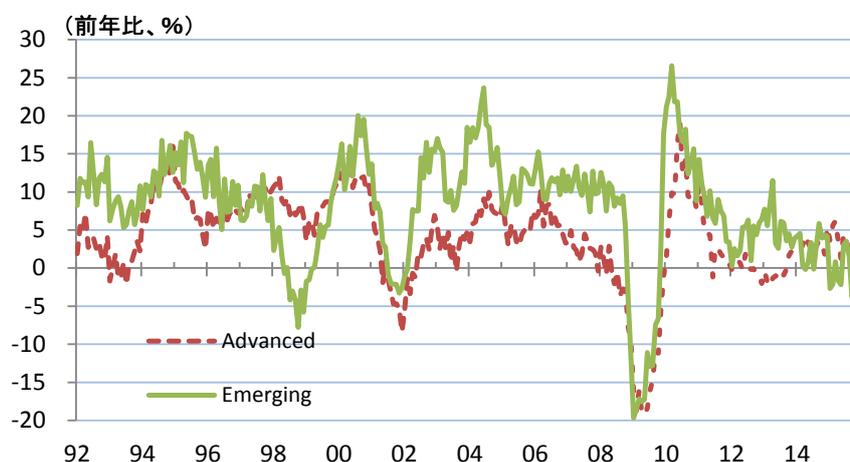
先進国の実質輸入は同3.4%増（10月）となっているが、新興国は同2.2%減であり、1-10月累積でも0.6%減となっている。低迷を先導しているのはアジアで、同4.2%減、1-10月累積で2.0%減になっている。貿易の伸びで他地域を上回っていたアジアが減速していることは、

バルチック・ドライ指数の安値更新とも符合する。

図 2. 世界実質輸入



(資料)トムソン・ロイター

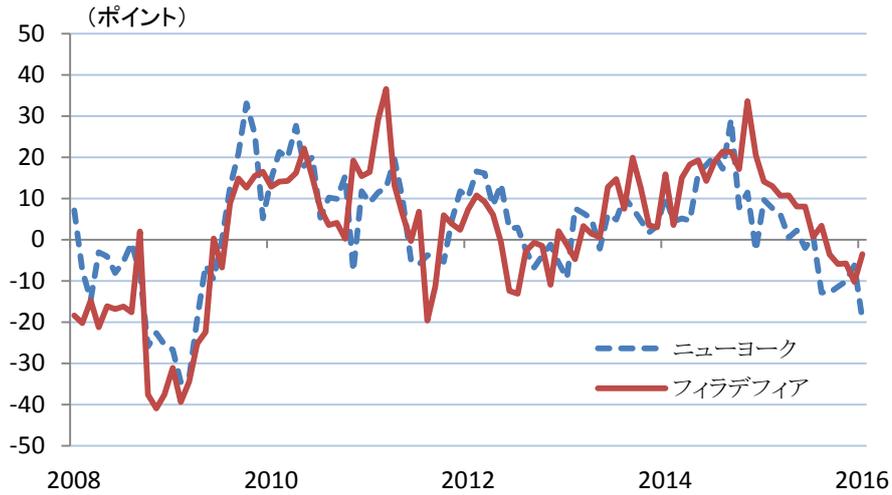


(資料)トムソン・ロイター

中国と資源国の冷え込みは明らかだが、これはもはや周知の事実である。世界経済にとってのリスクは米国であろう。ここまで世界経済の牽引役となっていた米国だが、年明け以後は製造業の減速を示すデータが散見される。利上げは始まったばかりだが、利上げに先立つドル高で製造業の競争力は徐々に失われ収益見通しに陰りが出ており、個別企業レベルでも決算発表をきっかけに株価が下落する例が続いている。

米国景気に変調が出てくると、今年の経済見通しは前提から見直さなくてはならない。

図 3. 米国の地域別製造業景況感指数



(資料)トムソン・ロイター

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。